



# さくら

題字 足立区長 近藤 やい

足立区民生・児童委員協議会だより

## 発行

足立区民生・児童委員協議会  
会長 市村 智  
編集 広報委員会  
発行日 2020年11月1日  
〒120-8510  
足立区中央本町1-17-1  
TEL 03-3880-5870



「みんなで行った花火大会」 宮城小 5年 鈴木 もえ 作

## 目次

民生・児童委員 PR 週間	2
各種表彰受賞者祝賀会	3
シリーズ「地域を訪ねて」	3
合同会長 あいさつ	4
手作りマスク寄贈	5
シリーズ「子どもたちはいま」	6
六月中ボランティア部	7
シリーズ「老後を考える」	8
編集 後記	8

## 元気を出して頑張りましょう



足立区民生・児童委員協議会 会長 市村 智

新型コロナウイルスは今も世界各地で猛威を振るい、いまだ先が見えない状況にあります。皆様もワクチンが開発され特效薬が早くでき、平穏な日常が戻ることを期待しながら毎日生活を送っているのではないのでしょうか。

のように行えばよいか考える必要があると思います。本来であれば地域の高齢者や子どもたちを見守る活動が主な役割だと思っておりますが、対面による安否確認やサロンなどの居場所づくりの活動が困難な状況下、気になる方と顔を合わせることもままならず、もどかしさを抱えながら活動をしていかなければなりません。

人が集まる催しがことごとく取りやめになり、これまで会社・団体などで当たり前だった行事は今後意義が見直されそうですし、地域で長年親しまれてきた行事も岐路に立たされております。人が集まれない状況下では、地域コミュニティの維持も難しくなり、ますます地域のつながりが薄れてしまうことを危惧しております。

少しでも異変に気付くように、徒歩による地域の見回りや啓発チラシの配布をするなどできることを行うことが大切であると思います。皆で工夫して活動して参りましょう。

我々民生・児童委員の活動のあり方についても、ど

最後になりますが、この厳しい難局を乗り越え、早く通常の民生・児童委員活動が笑顔でできることを期待しながら、地域の皆さんと一緒に元気を出して頑張りて行きましょう。



## 第9回 民生・児童委員 PR 週間 (5月11日～16日)



### PR 週間実行委員の皆さん

実行委員長	: 小宮俊一郎	(敬称略)					
副実行委員長	: 坂田 誠	木内 信雄					
相談役	: 市村 智	野辺 陽子	横山 堂侑	星野 雅夫	川上 重昭		
選出委員	: 木下 義男	薄井貴代美	久保田富士江	松本はな子	合田 弘子	中村 知代	
	長谷川美代子	中島 静香	澤村千津子	伊藤 友子	望月 典子	井上みよ子	
	加藤 宏一	横山 浩治	山本 住子	小泉 博	稲田 益巳	横田 富子	
	菊池 常子	須賀 宗一	三浦 仁子	千葉 祐子	中島はつ江	須賀はる子	
	赤羽 月子	清水 康弘	齋木 安江				

令和2年度の「民生・児童委員 PR 週間」イベントは、新型コロナウイルスの感染防止のために、パネル展示だけの大幅な縮小開催となっていました。そんな中、PR 実行委員会に「パネル部会」ができ、パネルの見直しなどをされたと聞いていました。

自粛期間中の5月3日(水)に区役所に用事がありましたので、展示パネルを見ました。昨年と同じくらいの数のパネルが展示されていました。約20分間パネル展示エリアに滞在していたのですが、この間に3人ほどパネルを見ている人を見かけました。PR 実行委員の方は居ませんので、説明を聞いたり質問をすることもできない状況でした。展示パネルの中に「がんばる! 民生・児童委員' PR 週間実行委員会」というパネルを見つけました。コロナに負けるなというメッセージと受け止めました。

展示会場すぐ横の総合受付に聞いたところ、「コロナにより助成金の関係でマイナンバーの手続きに来る方は多くいますが、自粛中ですから立ち寄る方は多くはないですね」とのこと。残念!

(神明地区 矢澤敏臣 記)



### さくら 53・54 号合併号としました

2月から広まりをみせた新型コロナウイルス感染症の拡大により、3月以降予定されていた民生・児童委員活動とその行事のほとんどが中止となりました。

広報委員会を開くことができず、緊急事態宣言が解除されてからも感染の収束が見えない為、7月配布予定の「さくら」53号の発行を見送ることにいたしました。

広報紙として抜けてしまうことの無いよう、今回の「さくら」を53・54号合併号として発行することにい

たしました。次の55号に関しましては、予定通り令和3年3月1日に発行できるよう、広報委員会一同、取り組んでいきます。これからも皆様のご理解をいただき、広報紙「さくら」を支えてまいりたいと考えております。よろしく願い申し上げます。

(広報委員会委員長 益塚賢治 記)



## 受賞 おめでとうございます

対象者 54名

### 令和元年度各種表彰受賞者祝賀会

大変暖かな令和2年2月10日、令和元年度各種表彰受賞者祝賀会が浅草ビューホテルにおいて、多くの来賓にご列席いただき盛大に開催されました。

国歌、区歌に始まり民生児童委員信条朗読、市村智



協議会会長の主催者挨拶、近藤やよい区長、鹿浜昭区議会議長、池永和子都民連副会長、宮崎十三足立区民生・児童委員OB懇話会会長による挨拶、来賓、主催者紹介と進み、表彰受賞者が各賞ごとに登壇し、近藤区長と一緒に記念撮影が行われました。

続いて瑞宝単光章を受賞された、鹿浜地区野辺陽子会長から「このように長きに活動できた事は皆様の協力のおかげです」と感謝の言葉がありました。また、厚生労働大臣表彰（社会福祉功労）を受賞された民生・児童委員協議会小久保隆前会長から「皆様より多大なる協力をありがとうございます」と感謝を述べられました。その後、民生・児童委員協議会から足立区育英資金へ寄付金が贈呈され、乾杯歓談と進み本年は54名の方が各種表彰（受賞者はさくら52号に記載）を受賞されました。

おめでとうございます。

（鹿浜地区 鈴木健治 記）

## シリーズ「地域を訪ねて」

### 千住宮元町町会・千住仲町町会

令和元年12月8日、新校舎になって初めての避難所運営訓練が行われました。運営は避難所運営本部となる千住宮元町町会、千住仲町町会の皆さんです。台風19号の際は千寿小学校も避難所として開設されただけに、参加者は真剣な<sup>おもも</sup>面持ちで訓練に取り組みました。

午前8時に役員が集合し、ガラス窓を破って鍵を確保する手順の確認から訓練がスタート。参加者はAED（自動体外式除細動器）や応急担架の組み立て体験、マンホールトイレの組み立てなど見学した後、備蓄用の非常用ご飯とカレーの炊き出しを試食しました。

宮元町町会防火・防災部の田中照雄部長は「当日はトイレの設営でマンホール蓋の開け方に戸惑ったり、お湯を沸かす調理用レンジまで水をひくホースが見つからなかったり…。やらなければわからない事も多く、訓練の大切さを実感しました」と話しました。

参加者は区災害対策課や区民事務所、千住消防署、学校職員、PTAなど総勢137名。台風19号時の避難者は約600名でしたので、訓練参加者は決して多いとはいえません。

千寿小学校の吉田初生副校長は「PTAとしての訓練参加は初めてで、町会とPTAの距離感がぐっと近くなった感じがしました。PTAの方々は、校内の様子や物品の所在もよくご存知で、台風19号の際も中心になって避難所の運営に関わって下さいました」と話されました。地域と学校、PTAとが危機意識を共有する、日常的な連携の大切さも再認識できた訓練でした。

（3地区 杉本和子 記）



▲ 訓練中の様子



# 合同会長 あいさつ

## 第一合同 横山堂侑会長



この度、二期目の第一合同会長を仰せつかり、身の引き締まる思いです。この地区は、南は隅田川、北は荒川に囲まれており、一種独立した地区の印象があります。この地区の特徴を生かし、各地区の交流を深め、第一合同地区がいわゆる“ワンチーム”として、地域の福祉向上に努力すると共に、地区の皆様の良き相談相手としてお役に立てるよう頑張りたいと思います。

我々の活動が地区の活性化と足立区民生・児童委員協議会のご発展の一助けになれば幸いです。

終わりに、新型コロナウイルスが一日も早く終息し、日常生活、活動が戻ることを願ってやみません。

## 第三合同 川上重昭会長



この度の一斉改選に於いて、10地区会長並びに第三合同会長に選任されました川上です。森春枝前合同会長と同様に皆様のご協力を得ながら日々、民生・児童委員活動に努めてまいります。

先日、足立区図鑑というテレビ番組に市村連合会長が出演されていました。その中で民生・児童委員といえども、全て分かるわけではなく、民生・児童委員の役割は行政に繋げ、問題解決に結びつけることにあると話していました。これからも、皆様と共に、各委員が負担を感じることはないような活動に努めてまいりたいと思います。

## 第二合同 星野雅夫会長



この度、第二合同会長に選任されました星野です。小久保隆前合同会長の後任ということで、かなりのプレッシャーを感じております。しかし、推薦を受けた以上は私なりに皆様方のご協力を頂きながら努めてまいりたいと思います。

第二合同は、周りを川で囲まれた、18地区・佐野地区・神明地区そして東綾瀬地区の4地区からなり、

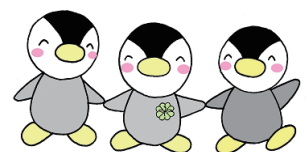
海抜ゼロメートル地帯です。今までの災害対策は、地震のことを想定した訓練でしたが、今後は水害対策も重要です。私たち民生・児童委員として、お年寄りや障がいのある方、そして子ども達のために何ができるかを考え、そこで今一度、民生・児童委員の原点に戻り、我々を必要とする方々に速やかに手を差し延べ、そして関係機関に繋ぐという本来の活動に第二合同の皆様のご協力をお願い申し上げます。

## 第五合同 野辺陽子会長



この度、第五合同会長並びに協議会会長職務代理をお引き受けいたしました野辺陽子です。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、会議、イベントなどの休止状態が残念ながら続いています。一刻も早い事態の終息を願うばかりです。

民生委員の活動は、まず自身の健康を一番に考え、すべての方と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めていくことだと思います。そして協議会は、民生・児童委員の思いを聞きながら気持ちよく本来の活動ができるように進めていかなければなりません。私も微力ではありますが全力を尽くしてまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。



足立区は「活動記録」提出率 100% 継続中です。



# 合同会長 あいさつ

## 第六合同 坂田誠会長



この度の一斉改選により、山本祥一前合同会長より第六合同の会長を引き受けましたが、大役にプレッシャーを感じております。しかし、私たち第六合同地区は、14地区、15地区、竹の塚地区、渕江地区と共に協力

し、助け合い前に進んで参りたいと思っております。

今般は、特に高齢化が進み、また近年は、台風などの被害により、地域の力が必要です。民生・児童委員の活動も重要になっている現在だからこそ、地域の声の1つ1つに耳を傾けて、活動していきたいと思っております。

## 第七合同 小宮俊一郎会長



昨年の一斉改選に於いて、この度も第七合同の大役を引き続きお引き受けすることになり、責任の重さを痛感している次第です。同時に、今春、中国武漢市で発生した新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、日本でも

緊急事態宣言が発出され、我々の日常生活も制約され、現在、その終息すら見えません。

民生・児童委員の訪問活動も自粛しております。必ず新型コロナウイルスに打ち勝ち、一日も早く本来の生活を取り戻し、すべての社会活動が再開され、社会福祉に貢献したいと思います。 がんばれ日本!!

## ジュニアリーダーの稲子さん 手作りマスク寄贈

今年は新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、マスクをしなければ感染予防にはなりません。そこで区立渕江中学校3年生の稲子彩さんが手作りマスクを、区内の学童保育室などに寄贈されました。

マスク不足が続いていた時に、近所の公園でマスクをしない子どもの存在が目に入り、稲子さんのお母様とお姉様の3人で「子ども用なら作れる」と毎日30枚以上作ったそうです。まず、300枚を桜花学童保育室に贈りその後、保育園や近所の子供会などに100枚以上贈ったそうです。

彩さんは「思ったより簡単ではなかったが、子どもたちがマスクをして楽しく遊んで欲しい」と思い一生懸命作ったそうです。マスクを手にした施設からは、たくさんの感謝のことばが寄せられているそうです。

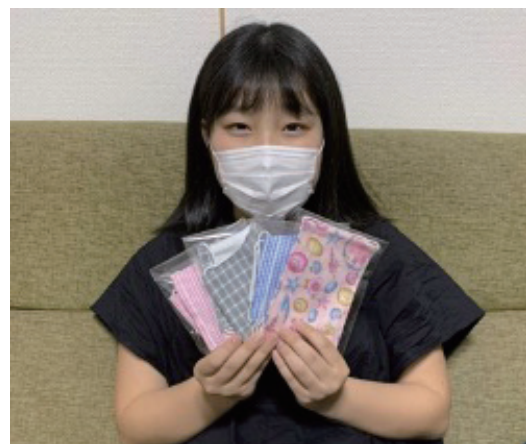
彩さんは足立区教育委員会の指導のもと、足立区少年団体連合協議会のジュニアリーダークラブの一員で、小学生の児童とキャンプに行き挨拶、礼儀などの指導や、食事を作ったりゲームをして楽しく活動しています。聞くところによると彩さんは、優しい人柄で児童から人気が高く評判が良いそうです。また、大人の指導者からの信頼も厚く決してミスがない、地元地域の方々にも一目おかれる存在です。これからも色々な面でジュニアリーダークラブの先頭に立って、活動していただきたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症の収束を願って…

(鹿浜地区 鈴木健治 記)



「気持ちの散歩」 宮城小 5年 山桑 <sup>ゆず</sup> 柚 作



◀ 稲子彩さんと作品



# シリーズ 「子どもたちはいま」

## みんなで育もう！ 子どもたちの安全と安心シンポジウム

足立区は刑法犯認知件数が5,000件台まで減少しましたが、平成30年度に実施した「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」では、子育てがしやすいまちだと思わない理由に「事故や犯罪が多く安全でない」との回答が49.7%もありました。

今後さらなる犯罪減少と足立区を子育てのしやすいまちにしていくためのスタートとして、令和元年11月1日（金）14時から足立区役所庁舎ホールにおいてシンポジウムを開催しました。

第1部は、安全インストラクターの武田信彦氏による、「子どもの見守りの意義と効果」についてわかりやすい楽しい講演、子どもの見守りのコツ・自分の身



▲ 体験の様子

を守るコツの体験を行いました。

第2部は、近藤区長司会のもと東京大学准教授の樋野公宏氏、筑波大学准教授の雨宮護氏、前述の武田氏の3名をシンポジストとして、皆様のご意見をもとに見守りについて討論しました。

全体を通して、子どもたちがひとりにならない環境を作るために「子ども」「地域」「保護者」の連携が重要であること「あいさつ」や「見守り活動」の大切さを学ぶ機会となりました。

地域の皆さまにおかれましては、子どもの安全につながる「あいさつ」と「見守り活動」へのご協力をよろしくお願いいたします。（まちづくり課 記）



### 赤い羽根共同募金

募金総額 546,170 円

※10月21日現在

毎年10月1日、民生・児童委員は区内の主要駅の駅頭に立ち、募金運動を実施しております。しかし、今年度は新型コロナウイルス感



染症拡大に伴い中止となりました。例年は、通勤に急ぐ方、近隣住民の方が募金だけでなく、私たちに温かい言葉を掛けて下さいます。実施できないのは本当に残念です。その代わりに、今回は9月の各合同地区協議会開催時に民生・児童委員に募金をお願いし、皆で支え合う決意を固めました。

(4地区 吉田祐一 記)



「TAIGA POPPINS」 新田学園  
制作時2年 坂下 大河 作



# ふれあいいいききサロンを支える

## ～六月中学校ボランティア部～

『地域との繋がりを強く持ちたい』その想いの上に、六月中学校ボランティア部は「ふれあいいいききサロン」を開催しています。これは社会福祉協議会共催のもと、高齢の方々と地域の方々が繋がり居場所をもち続けることを目的に行われるイベントです。六月中にとっても、演奏会や茶道のお点前てまえを通し、日々子ども達を見守ってくださる皆様に感謝の気持ちを伝える、大切な場となっています。

ボランティア部の生徒たちはサロンの際、西新井警察署の指導のもと、車いすを利用されている老人ホームの利用者の方々を送迎します。この活動を「パートナーシップ」と呼び「地域の高齢者の役に立ちたい」という部員達の想いから、このパートナーシップの充実化が図られました。

人を助けるために必要なのは、正しい知識と理解。そこで実施したのが「パートナーシップ勉強会」でした。勉強会当日は、西新井警察署と老人ホームのスタッフをお招きし、認知症や高齢者の方の悩みについて、講演をしていただきました。

終了後、生徒たちからは「知らない事が多かった!」「とても勉強になった!」という声。誰かの役に立ち

たくてボランティア部に入部した彼らが、そのための知識と方法を得た瞬間でした。目を輝かせ、さらに想いを強くさせているのが伝わりました。

地域の方々との交流が希薄になっている現代社会の中で、このような知識の芽生えは宝物です。来年度は、この勉強会を生かした更なる活動を企画しています。少しでも社会に寄与するために、今日も子ども達は思考を巡らせます。

(六月中学校ボランティア部 顧問 佐藤多恵 記)



「はなのいえがかわった」 扇小 1年 岩壁 はな 作



「うみのいきもの」 新田学園 1年 池田 かな 葉渚 作

今回のさくら53・54号（合併号）では、休校の影響により、中学生の詩歌・俳句の掲載はございません。



# シリーズ 老後を考える

## 西新井地域ふれあいサロン交流会 開催

令和元年11月19日「第3回西新井地域ふれあいサロン交流会」がOUCHIカフェ（大内病院隣接の障がい者就労支援施設）にて開催されました。

社会福祉協議会基幹地域包括支援センターのバックアップのもと、7つのふれあいサロンが手芸作品の展示、麻雀実演、クリスマスリース製作など各個性をアピールし、気軽に遊びに来て下さいとお誘いしました。

スタッフ一同、なぜそこまでできるのだろう…と考えてみると「サロンに来て欲しい」という事になるからです。なぜ、サロンが必要なのか？年齢のせいで活動的になれない人たちが、少しでもストレスを発散し、人と繋がることによって、互いに手助けしあう事を願っているからです。

小春日和の外庭では、アートアクセスあだち音まち千住の縁によるシャボン玉アートが舞っており、それを囲んでの「シャボン玉おどり」は大いに盛りあがりました。

この交流会を準備したスタッフは、各地域でいつもこの様に頑張っています。体操、歌、早口言葉などの脳トレ、あるいは、麻雀などのゲーム、手芸等々。あ

なたとあなたの周りに、もしこうした場が必要だと思われる方がいらしたら是非お声かけして、ご参加ください。

### 【参加サロン】

- \* 男の井戸端会議
- \* しゃべり場Kカフェ
- \* 西新井いきいきサロン
- \* 5（ファイブ）チューリップ
- \* サロン栗の実
- \* チューリップ
- \* 西新井男師
- (50音順)
- (サロン栗の実代表 9地区 秋本雅信 記)



▲ 参加サロンの皆さん



### 編集後記

3月以降、毎月広報委員会を開催することはできませんでした。また、記事にする予定の行事が中止になり掲載記事の変更、そして初めて担当するレイアウトに戸惑いましたが発行することができ安堵しています。

今後、「リモートワークの時代」に変革する可能性があります。広報委員会は全員が顔を揃えて各地区の委員と情報交換をしながら委員会を開催したいと強く感じました。

(神明地区 矢澤敏臣 記)

- ・小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校に順番にお願いしております。
- ・原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談ください。
- ・皆様の原稿を募集いたします。(原稿は未発表のものに限ります) 次号発行予定日 3月1日

### 広報委員会

- |             |              |            |            |             |             |              |               |      |              |              |      |      |     |       |      |     |      |              |      |       |      |      |      |     |
|-------------|--------------|------------|------------|-------------|-------------|--------------|---------------|------|--------------|--------------|------|------|-----|-------|------|-----|------|--------------|------|-------|------|------|------|-----|
| 委員長<br>益塚賢治 | 副委員長<br>齋藤祐子 | 書記<br>高橋純子 | 会計<br>小川玲子 | 副会計<br>松浦恵子 | 編集長<br>鈴木健治 | 副編集長<br>金宮和代 | レイアウト<br>吉田祐一 | 矢澤敏臣 | 校正長<br>足立由美子 | 編集委員<br>杉本和子 | 今井幸博 | 鈴木政博 | 渡邊進 | 吉澤はる江 | 木村克博 | 佐藤進 | 鈴木恒男 | 校正委員<br>富澤久男 | 坂井成一 | 桐田幸一郎 | 鶴岡一夫 | 土屋幸枝 | 神野松江 | 齋木安 |
|-------------|--------------|------------|------------|-------------|-------------|--------------|---------------|------|--------------|--------------|------|------|-----|-------|------|-----|------|--------------|------|-------|------|------|------|-----|